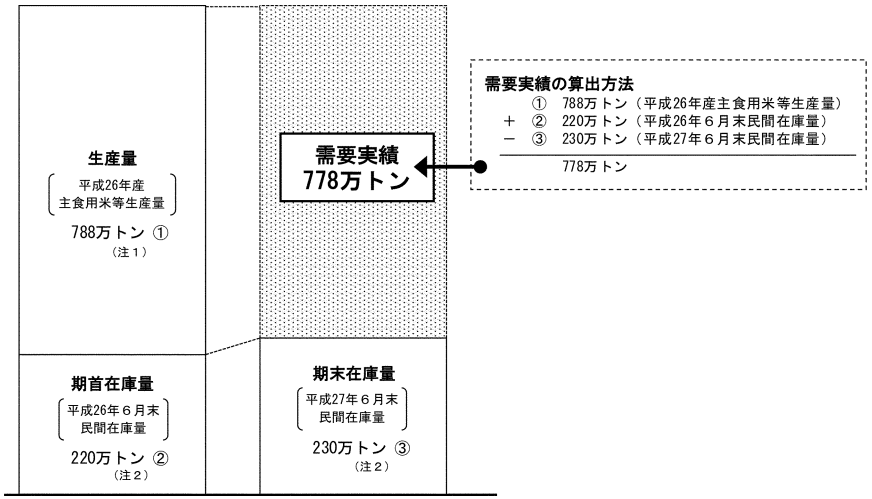
図１　平成26／27年の需要実績（速報値）



注１：主食用米等生産量は、平成26年産米の水稲収穫量（主食用）（「作物統計」農林水産省大臣官房統計部）である。

注２：６月末在庫量は、玄米の取扱数量が年間500トン以上の届出事業者の在庫量に10a以上の作付生産者の在庫量推計値を加えたものである。

２　全国の平成27／28年の需要見通し（推計値）

平成27／28年（平成27年７月から平成28年６月までの１年間）の全国の需要見通しについては、平成16年７月策定の基本指針において最近の米の消費量を踏まえて採用した手法により、平成８／９年（平成８年７月から平成９年６月までの１年間）から直近の平成26／27年までの全国の需要実績を用いてトレンド（回帰式）で算出すると、図２及び表２のとおりとなります。

図２　平成８／９年～平成26／27年の全国の需要実績を用いた算出方法

（単位：万トン）

年	x	需要量(y)	
8／9	1	943.8	
9／10	2	912.9	
10／11	3	907.3	
11／12	4	885.9	
12／13	5	911.5	
13／14	6	872.1	
14／15	7	894.7	
15／16	8	861.6	
16／17	9	865.4	
17／18	10	851.7	
18／19	11	837.5	
19／20	12	854.5	
20／21	13	823.6	
21／22	14	814.1	
22／23	15	820.0	
23／24	16	813.3	
24／25	17	781.1	
25／26	18	786.6	
26／27	19	777.9	（速報値）
27／28	20	769.8	（推計値）

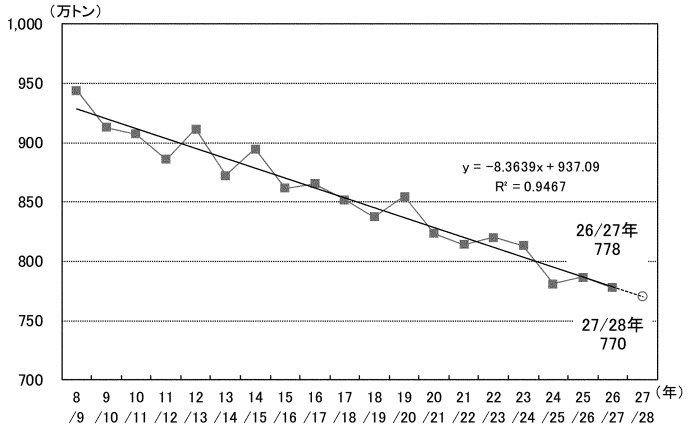


表２　平成27／28年の需要見通し（推計値）

平成27／28年	770万トン

３　平成27／28年の需給見通し

平成27／28年の需給見通しは、表３のとおりです。

(1)　供給量

①　平成27年６月末の民間在庫量（速報値）は、230万トンです。

②　平成27年産米の生産数量目標は、平成26年11月に変更した基本指針で設定した平成27年産米の全国の生産数量目標の751万トンです（平成27年産米の生産量は、作柄等により上下します。）。

③　この結果、平成27／28年の主食用米等の供給量の合計の見通しは、981万トンとなります。

(2)　需要量

主食用米等の需要量の見通しは、２により算出した770万トンです。

(3)　平成28年６月末の民間在庫量

平成28年６月末の民間在庫量は、(1)の供給量及び(2)の需要量から算出して211万トンと見通されます。

表３　平成27／28年の主食用米等の需給見通し

（単位：万トン）

		生産数量目標	自主的取組参考値(注)
平成27年６月末民間在庫量	A	230	230
平成27年産米生産数量目標等	B	751	739
平成27／28年主食用米等供給量計	C＝A＋B	981	969
平成27／28年主食用米等需要量	D	770	770
平成28年６月末民間在庫量	E＝C－D	211	199

注：自主的取組参考値（739万トン）については、仮にこれだけ生産すれば、平成28年６月末の民間在庫量が過去の平均水準に近づくこととなるものとして設定したもの。

第３　米穀の備蓄の目標数量その他米穀の備蓄の運営に関する事項

１　備蓄運営の基本的な考え方

国が行う備蓄は、米穀の生産量の減少によりその供給が不足する事態に備え、必要な数量の米穀を在庫として保有することとされていることから、毎年６月末時点での在庫量100万トン程度を現行の適正水準として、需給状況を踏まえつつ必要な数量の米穀を保有することとします。

備蓄運営手法については、平成23年度から棚上備蓄方式に移行しました。

棚上備蓄方式による備蓄運営の基本的な考え方は、

①　適正備蓄水準は100万トン程度（６月末）

②　国内産米を一定期間（５年間程度）備蓄

③　備蓄米の買入れは、出来秋の市場価格に影響を与えないよう事前契約によることを基本に、公正性・透明性を確保する観点から一般競争入札により実施